

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

小学校及び義務教育学校第6学年（以下、小学校という）、
中学校第3学年及び義務教育学校第9学年（以下、中学校という）

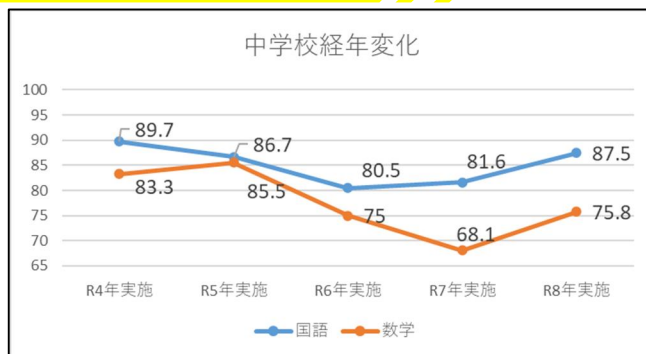
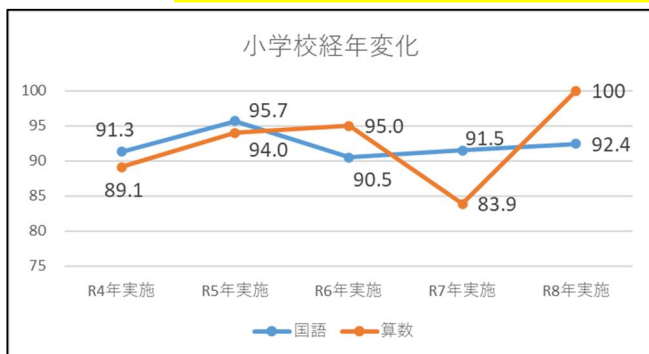
3 調査の内容

① 教科に関する調査：小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学、英語

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

[児童生徒に対する調査、学校に対する調査]

めざせ！全国平均正答数超え！！



上記のグラフで表示している数値は、全国の平均正答数を100とした場合の標準化得点です。全国との比較では、小学校において、国語（－7.6P）、算数（±0P）、中学校において、国語（－12.5P）、数学（－24.2P）の差でした。

【成果】

- 小学校、中学校共に、令和7年から令和8年にかけて、国語・算数（数学）が向上しました。その中でも、小学校算数においては、全国平均（100.0）に達しました。

【課題】

- 小学校の国語においては、思考力・判断力・表現力を問う問題の「書くこと」についての正答率が、全国平均より7.6P低く、課題が見られます。
- 中学校の国語・数学においては、記述式の問題の正答率が、全国平均より国語7.9P、数学は18.1P低く、課題が見られます。
- 小・中学校とも、土日に家庭学習を全くしない子どもの割合が全国平均を上回っています。

【改善策】

- 単元テスト等により短いスパンにて児童生徒の基礎・基本の定着状況を把握するとともに、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す「個別最適な学び」と多様な他者と高め合う「協働的な学び」を組み合わせ、充実させた授業づくりを行っていきます。
- 学校と家庭が連携した家庭学習の習慣化を図るために嘉麻市主催の土曜未来塾を開催したり、英語力の向上を図るために放課後英語塾等を推進したりしています。
- 嘉麻市学力向上検証委員会において、各校の学力向上に向けた取組を交流することで、取組の確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、学力向上に向けた取組の充実を図っていきます。